

「（仮称）第3期日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」策定に向けた 各種調査の概要について

1 目的

「日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」の策定を進めるにあたり、子育て家庭や子ども本人の生活状況、ならびに市民の施策に対するご意見・ご要望を把握し、そのニーズや意向を計画に反映させるため、アンケート調査・ヒアリング調査等を実施いたしました（一部予定を含む）。

なお、いくつかの調査は、「子どもの声を聴くこと」に主眼を置いた調査であり、子ども本人を「基本方針」策定のプロセスの中に巻き込むことを意図したものととなります。これは、現行の『ひのっ子若者みらいプラン（第1期日野市こども計画／第3期日野市子ども・子育て支援事業計画）における施策「子ども・若者の意見表明の機会の創出」を踏まえた取組として位置付けられるものとなります。

2 調査種別

実施した調査の種類は以下の通りです。

調査種別	調査方法	対象者
子どもの生活実態調査	紙およびオンラインによるアンケート	小学5年生・中学2年生・16-17歳の子ども本人と保護者
児童館等施設における子どもの意見聴取	対面でのヒアリング	児童館の利用者（小学生～高校生）
関係団体および学校・園への調査	アンケート（一部に電話でのヒアリング）	子ども関連支援団体 市内保育園・幼稚園・小中学校
日野市地域共創プラットフォームによる調査（予定）	オンラインによるアンケート	子ども・若者・地域住民

3 子どもの生活実態調査

（1）概要

日野市在住の小学5年生・中学2年生・16-17歳の子ども本人およびその保護者に対するアンケート調査です。保護者の調査結果とその子どもの調査結果を結びつけて分析することに特長があり、特に、保護者の調査結果から導き出される生活困窮度を軸に、子ども本人の生活状況やニーズを分析するところがポイントとなります。

調査対象：市内在住（市外学校に通う子どもも含む）の小学5年生、中学2年生、16-17歳の子どもの本人、およびそれぞれの保護者

調査方法：学校配布（市内学校に通う小中学生、およびその保護者）

郵送配布（市外学校に通う小学生、16-17歳児童全員、およびその保護者）

※鏡文にURLおよび二次元コードを記載しオンライン回答も可能とした

調査期間：令和7年9月22日～令和7年10月24日

(2) 配布・回収数等

調査対象	配布件数	回収件数 (WEB回答件数)	回収率
小学生本人	1624	801 (344)	49.3%
中学生本人	1628	665 (367)	40.8%
16-17歳本人	1646	354 (127)	21.5%
小学生保護者	1624	860 (454)	53.0%
中学生保護者	1628	736 (448)	45.2%
16-17歳保護者	1646	410 (190)	24.9%

(3) 調査結果概要

資料 2-2 をご参照ください。

4 児童館等施設における子どもの意見聴取

(1) 概要

日野市内の児童館および子ども関連の支援施設を利用している子どもに対して、現地での対面式ヒアリングを実施しました。事前に用意した質問項目に沿って、1対多数のインタビュー形式でご意見を伺いました。貧困問題に限らず、子どもの生活や意識に関わる内容を広く尋ねることで、子どもの生活実態調査よりも広い視点から課題を検討することを目的としています。

(2) 実施場所および回答者数並びに回答者内訳

実施場所	回答者内訳		
まんがんじ児童館 計27名	小学4年生 6名 中学1年生 2名 高校1年生 1名 その他(22歳ボランティアスタッフ) 1名	小学5年生 12名 中学2年生 1名	小学6年生 4名
ひらやま児童館 計27名	小学1年生 1名 小学5年生 2名 中学2年生 1名	小学3年生 9名 小学6年生 7名	小学4年生 7名
ほっとも 計9名	小学3年生 2名 中学1年生 1名 高校1年生 1名	小学4年生 1名 中学3年生 2名	小学5年生 2名
フリースペース たけのこ 計11名	小学2年生 1名 小学5年生 2名	小学3年生 3名 小学6年生 1名	小学4年生 4名

(3) 調査結果

質問項目ごとに内容を以下の通り整理しました。

① どんな遊び場や居場所があったらいいかな？

【屋内施設】

- ・Wifi が使える児童館、体育館、秘密基地のような場所（子ども専用スペース）。
- ・鏡付きのスタジオ（ダンスやテコンドー）や天候に左右されず遊べる広いスペース。

【公園・屋外施設】

- ・運動ができる場所（野球場、ドッグラン、自然環境がある公園、アスレチック、滑り台、ブランコ）。
- ・ボール遊びが可能な公園。
- ・芝生エリアやターザンロープなど遊具が充実した施設。

【その他】

- ・子どもと大人が交流できる場所や、お母さんが休憩できるスペース。

② どんな体験活動をしてみたい？

【スポーツ体験】

- ・新しいスポーツ（剣道、ラグビー、クライミング、バレーボール、野球）。
- ・運動・ダンス・バスケットボールなどの身体活動。

【職業体験】

- ・保育士、パティシエ、ネイル・美容部員、消防体験や地震体験などの職業活動。

【ものづくり・料理】

- ・レインボーソルト作り、工作、歌や音楽制作（Garage Band）、料理体験（パフェ、ハンバーグ、カレー、スイーツづくり）。

【自然・文化活動】

- ・自然体験（生き物と触れ合い、田んぼで稲刈り）。
- ・工場見学（カップラーメンやお菓子の製造）。

③ 放課後や休みの日にどう過ごしたい？

【友達との交流】

- ・友達と遊ぶ（鬼ごっこ、ドッジボール、カラオケ、バカ話をする）。

【家族との時間】

- ・家族と出かけたり、ゲームをしたりする時間が楽しい。

【個人の活動】

- ・家で勉強やゴロゴロする、マンガを読むなど、自由時間を過ごしたい。

④ 悩みがあるときだれに相談したい？

【身近な人】

- ・家族（親、兄弟姉妹）、信頼できる友達、学校の先生。

【その他】

- ・専門的サポート
- ・スクールカウンセラーや放課後施設のスタッフ、AI（ChatGPTなど）。

⑤ 大人に自分の意見を言うのは難しい？

【難しいかどうか】

- ・ ほとんどの回答者は難しくないと回答するも、一部に難しいとの意見あり。

【難しい理由】

- ・ 怒られることが怖い、言葉にするのが恥ずかしい。
- ・ 伝えたい事がまとまらなかったり、相手への信頼がない場合。

【言いやすい場合】

- ・ 信頼関係がある親や先生、共感してくれるお年寄りの場合には言える。

⑥ 友達の良いところ、自分の良いところは？

【友達の良いところ】

- ・ 優しさ、面白さ、一緒にいると楽しいところ、励ましてくれるところ。

【自分の良いところ】

- ・ 「努力家」「野球が得意」「優しい」「記憶力が良い」など能力や個性を認める声。
- ・ しかし、自分の「良いところが見つからない」との意見も一部見られる。

⑦ なにをしているときが一番楽しい？

【友達との遊び】

- ・ 鬼ごっこ、ドッジボール、バスケ、野球などのチームスポーツ、一緒にゲームをする時間

【個人的な楽しみ】

- ・ おしゃれやメイク、音楽、読書・マンガを読む時間。
- ・ 動物や自然に触れ合う体験、温泉やおいしいものを食べること。

⑧ その他

- ・ 地域のお祭りにもっと関わりたい、特別なイベントの運営や企画に参加したいとの声。
- ・ 安全性への要望として「明るく安全な場所」「きれいなトイレ」や「避難場所となる施設」の提案があった。

(4) 結果の総括

○ 調査結果から導かれる重点課題

- ・ 子どもの遊び場や活動支援の充実：屋外・屋内施設のバランス、充実したスポーツ・自然体験の提供。
- ・ 心理的なサポート体制：相談しやすい環境づくり、大人との信頼関係構築。
- ・ 自己肯定感を高める施策：自分の良さを見つけられる場や機会の提供。

○ 基本方針に反映すべき方向性

- ・ 遊び場の整備：児童館や公園、スポーツ施設における環境改善。Wifi や遊具の設置、トイレの清潔性向上に配慮。
- ・ 体験活動の強化：職業体験や自然活動、多様なスポーツなど選択肢の広い活動を企画。
- ・ 相談体制の確立：スクールカウンセラーや地域支援者を活用し、信頼できる相談窓口を確保。

5 関係団体および学校・園への調査

(1) 概要

日野市内の子どもに関係する支援団体、および市内保育園・幼稚園、小学校、中学校に対してヒアリングシートによる調査を実施しました（オンラインフォームでの回答）。一部団体に対しては、質問内容をより詳細に伺うため、電話およびWEBによるヒアリングを行いました。これまでの調査とは異なり、支援者や支援機関の側における課題やニーズを引き出すことが目的となります。

(2) 調査対象

区分	回答者※依頼した内、回答のあった学校・園及び団体		
市内 学校・園 (29件)	【保育園・幼稚園】		
	たかはた台保育園	みなみだいら保育園	
	しんさかした保育園	あおぞら多摩平保育園	
	栄光多摩平の森保育園	日野わかば保育園	
	日野保育園	至誠いしだ保育園	
	もぐさ台保育園	子どもの森あさかわ保育園	
	第二幼稚園	第七幼稚園	
	【小学校】		
	七生緑小学校	旭が丘小学校	東光寺小学校
	滝合小学校	仲田小学校	豊田小学校
南平小学校	平山小学校	日野第四小学校	
日野第五小学校	日野第六小学校	日野第七小学校	
【中学校】			
七生中学校	三沢中学校	平山中学校	
日野第二中学校	日野第四中学校		
関係団体 (23件)	ほっとも日野	おむすびキッチン	
	みさわ児童館	日野市立みなみだいら児童館ぱらねっと	
	(公財) 社会教育協会	NPO法人フードバンクTAMA	
	あさひがおか児童館	子ども包括支援センター内中高生世代スペース	
	しんめい児童館	日野市立次世代育成型子育てひろばあかいかいやね	
	日野市立まんがんじ児童館	一般社団法人10代と社会をつなぐプロジェクト	
	ひの市民活動支援センター	日野市ヤングケアラーコーディネーター事業	
	フリースクール寺子屋のびの〜び		
	くらしの自立相談支援窓口みらいと	サテライトセンター高幡	
	ほっとも高幡	ほっとも多摩平	
	マインドー読み書き苦手な子の学習会ー		
	おむすびころりん	無料学習塾 日野すみれ塾	
	かめひろば	c-plant	

(3) 関係団体の調査結果と総括

関係団体への調査結果と、そこから導かれる課題等を、下記の通り整理しました。

- ① 貴団体と関りがあるお子さんやそのご家庭において、困難を抱えている様子のあるご家庭はいらっしゃいますか。
 - ・多くの団体が困難を抱える家庭の存在を認識している。特に、外国籍、不安定就労や低収入家庭、ひとり親家庭。
 - ・子どもが進学機会や十分な体験活動を得られない状況も見られる。
- ② 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭において、特別な背景や特徴は見られますか。
 - ・外国籍家庭では言葉の壁、社会的仕組みに対する理解不足が課題。
 - ・日常生活における孤立、ゴミ屋敷状態など生活面の混乱が報告された。
 - ・保護者が病気や精神疾患、障害を抱える家庭も複数確認された。
- ③ 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭における保護者には、生活面や就労の面でどのような特徴がありますか。
 - ・非正規雇用、短期間の就労、継続勤務が困難なケースが目立った。
 - ・保護者の不安定な生活や食料の不足、物価高騰による家庭内の困難が報告されている。
- ④ 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「保護者」との関係性で特徴的なことはありますか。
 - ・子どもが保護者に甘えられない、家庭内で本心を抑え込む傾向。
 - ・特に母子家庭では親子の結びつきが強く、子どもが家庭内で無理をしている様子が見られる。
- ⑤ 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「支援者」との関係性で特徴的なことはありますか。
 - ・子どもが支援者に対して信頼を寄せ、相談や関係構築が進む傾向が確認された。
 - ・支援の場を通じて、子どもの行動や精神面の変化が促されるケースもある。
- ⑥ 「保護者」と「支援者」との関係性で特徴的なことはありますか。
 - ・保護者が「支援を受けること」への後ろめたさを感じる一方、信頼関係が構築されると積極的に相談してくる事例が確認された。
- ⑦ 貴団体の活動範囲内で解決していくことを想定している現状の課題をお答えください。
 - ・活動資金不足、人員確保、広報不足、ネットワーク構築が共通課題。
 - ・不登校の子どもや特性を持つ子どもへの対応の困難さが指摘された。
- ⑧ 貴団体以外（行政等）からの支援が必要と思われる現状の課題をお答えください。
 - ・資金援助や人材確保に加えて、複雑な家庭問題への包括的な行政支援が求められている。
 - ・支援ネットワークや行政と現場の連携の強化が課題。
- ⑨ 現在連携している関係機関をお答えください。
 - ・子ども家庭支援センターや各種行政機関、学校、児童館、フードバンクなど多岐にわた

る。

⑩ 今後連携したい関係機関をお答えください。

- ・高校、大学、地域の医療機関や企業、特別支援学校などの連携強化の希望がみられる。

⑪ 貴団体の活動の中で最も効果的だったと思われる独自の取組について、具体的にお答えください。

- ・食事提供や居場所の活動、個別学習支援が特に効果的とされた。
- ・子どもの参加を通じた成長変化や地域支援者との結びつきが報告された。

⑫ 活動をより充実させるために、行政に求めたいことはありますか。

- ・資金援助、人材確保、継続的な支援体制構築の要望。
- ・具体的な施策として広報活動や支援物資調達の改善。

⑬ 活動をより充実させるために、地域の人たちに協力を求めたいことはありますか。

- ・地域イベントや講演による啓発活動の支援。
- ・見守り体制への地域参加の促進。

⑭ 今後、貴団体で取り組んでいきたいと考えている活動はどのようなことですか。

- ・新しい居場所づくり、中高生向けの学びの場提供、普及活動。
- ・親子の支援を同時に行い、生活全体を支援する取り組み。

⑮ 現在の制度・支援のあり方、広報等の課題についてお答えください。

- ・支援対象者の認知が不足しており「支援が必要だ」と思える仕組みづくりが重要。
- ・不十分な運営資源への改善提案。

⑯ 子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組には、どのようなものが考えられると思いますか。

- ・食事支援、居場所提供、継続的な学びと相談支援が挙げられる。
- ・地域や行政、学校との連携を活用し、包括的な支援体系を構築する必要性。

○ 調査結果から導かれる重点課題

- ・経済的困難や就労不安定を抱える家庭の支援。
- ・子どもへの安心できる居場所・食事提供の拡充。
- ・保護者への精神的・生活上のサポート強化。
- ・地域・行政・多機関による連携を強化。

○ 基本方針に反映すべき方向性

- ・子どもと保護者を一体として支援する包括的な体制の確立。
- ・包括的支援ネットワークの構築を推進し、継続的な関わりを促す。
- ・支援活動の安定運営を可能にする資金・人材・広報の改善。

(4) 学校・園の調査結果と総括

学校・園への調査結果と、そこから導かれる課題等を、下記の通り整理しました。

① 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭の、子ども、保護者において、特別な背景や特徴はありますか。

- ・ひとり親世帯や両親不在（離婚、内縁関係など）が多く見られる。
- ・保護者が病気や精神的不安定、不可逆な経済的困難を抱える家庭も存在。
- ・保護者が養育スキル不足に直面するケースや、ヤングケアラー経験を持つ場合も確認。
- ・愛着不足、自己表現困難など、家庭の影響と考えられる子どもの特徴。

② 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「保護者」の関係性で特徴的なことはありますか。

- ・保護者が忙しく、子どもとのコミュニケーションが希薄な家庭が多い。
- ・反面、ある程度のコミュニケーションが保たれている家庭は問題が軽減。
- ・保護者が子どもの生活に関心になるケースや、保護者側が過剰に支配的である傾向が指摘。

③ 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「教員・幼稚園教諭・保育士」との関係性で特徴的なことはありますか。

- ・教員・保育士に過度な心理的依存や甘えを示す傾向あり。
- ・教育現場において教員が家庭の代替的役割を果たす期待が見られ、職務を超える対応に課題がある。

④ 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭において、「保護者」と「教員・幼稚園教諭・保育士」の関係性で特徴的なことはありますか。

- ・教員への過度な依存、非協力的態度、不満の表明などが散見される。
- ・経済的困難が表面化した家庭では、支払いや連絡が滞る傾向。

⑤ 現在連携している関係機関をお答えください。

- ・子ども家庭支援センター
- ・八王子児童相談所
- ・エール（発達支援センター）
- ・日野警察署
- ・NPO団体（子ども食堂、子どもの居場所づくり支援など）

⑥ 今後連携したい関係機関をお答えください。

- ・保護者支援に強みを持つ団体や、家庭・子ども双方にアプローチできる機関。
- ・医療支援機関など、専門的な助言が可能な団体に期待が寄せられている。

⑦ 貴校・貴園で実施した中で、教育や福祉に関連すること以外に最も効果的だったと思われる独自の取組について、具体的にお答えください。

- ・放課後学習の支援体制や、地域人材を活用した体験型活動（稲作体験、物語の会など）。
- ・児童館でのフードパントリーや、中古衣服提供など実用的な支援。

⑧ 上記のような取組をより充実させるために、行政に求めたいことはありますか。

- ・制度の周知や相談機能の充実（特に夕方・夜間対応の必要性）。
- ・教育や福祉に必要な予算・人的リソースの拡充。
- ・社会福祉制度を視覚化し、保護者の負担を低減する調整への期待。

⑨ 上記のような取組をより充実させるために、地域の人たちに協力を求めたいことがありますか。

- ・子ども食堂や不登校支援活動の強化。
- ・保護者も巻き込んだ地域ネットワーク作り。

⑩ 今後、貴校・貴園で実施したいと考えている取組は、どのようなことですか。

- ・放課後支援、学習支援の強化に資源を集中したいとの意見が多数。
- ・地域活動をベースとした子どもと保護者を包括する活動計画。

⑪ 現在の制度・支援のあり方、広報等の課題についてお答えください。

- ・福祉や子ども貧困支援の制度が十分認知されていない。
- ・忙しい保護者に対応可能な支援制度（相談時間帯、手続き簡素化）が不足。
- ・行政で関係機関間の効果的な連携体制が求められる。

⑫ 子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組には、どのようなものが考えられると思いますか。

- ・子ども食堂やフードパントリー活動の推進。
- ・子ども家庭支援センターを軸としたソーシャルワークの強化。
- ・教育・福祉人材の専門性向上や、地域住民の理解促進を通じた支援強化。

○ 調査結果から導かれる重点課題

- ・保護者の養育スキル向上と心理的安定が子どもの成長に直接影響するため、家庭単位での課題解決を重視。
- ・教育職員が家庭問題に深く関与しなくても、関係機関とのスムーズな連携が図れる体制作りを早急に整備。
- ・忙しい保護者や意識の薄い保護者も利用しやすい福祉制度の広報や仕組み作りが急務。
- ・地域人材・NPOを活用した支援体制を充実させ、行政と地域が一体化して支える仕組みが重要。

○ 基本方針に反映すべき方向性

- ・子どもの健全な成長を目標に置き、家庭、学校、地域が連携して支援を行う。
- ・制度や予算の柔軟性を高め、家庭環境に応じたオーダーメイドの支援を実施。
- ・福祉制度の周知徹底、現場と行政の連携強化、人的リソースの確保を柱とする。

6 日野市地域共創プラットフォームによる調査

(1) 概要

日野市で稼働している、地域共創プラットフォームを用いて意見聴取を実施します。オンライン上で質問し、広く市民からの意見を聴取いたします。実施形式は、オンラインアンケートに近いですが、前提情報や概要資料等を掲載することができるため、より方針の内容に即した回答をいただくことが期待できます。

子どもと保護者の生活実態調査で把握された定量データを補完する（調査結果の背景にある具体的意見や課題を深掘り）ため、オンラインプラットフォームを活用し、市民参加型の対話と合意形成の仕組みを通じて、日野市の子どもたちが抱える課題や希望、具体的な支援ニーズを明らかにし、次期基本方針に反映する。

調査期間（予定）：1月上旬～下旬 ※早ければ12月下旬開始

実施場所：オンライン

対象者：子ども・若者・地域住民

設問：

- ①学校や家庭など、日常の中で困ったり悩んだりすることはありますか？
どんなサポートがあれば解消されると思いますか？
- ②日野市内であなたが一番「ほっとする場所」はどこですか？
放課後・休日に「もっとこうなったらいいな」「こんな場所が欲しい」という場所はどんな場所ですか？
- ③あなたの将来の夢はなんですか？
夢をかなえるために、市にどんなサポートをお願いしたいですか？
- ④あなたは自分の生活にどのくらい満足していますか？
市にどんなサポートをお願いしたいですか？

(2) 進捗状況

現在、プラットフォームの前提情報や設問の設定作業中。周知チラシの完成、小中学生への配信準備が整い次第、調査開始予定。

7 子どもの相対的貧困率の調査

(1) 概要

日野市に住民票を有する世帯の、課税情報等を用いて貧困率を推計します。

推計業務には子どもの貧困対策に関する研究の第一人者でもある、東京都立大学人文社会学部人間社会学科教授兼子ども・若者貧困研究センター長の阿部彩先生をお願いしております。

こちらの結果は日野市内の貧困の現状を把握する根拠資料となりますので、集計が完了次第報告いたします。